

〔 横浜みなとみらいホール 〕

令和 6 年度業務報告及び収支決算

〔公益財団法人横浜市芸術文化振興財団〕

1 施設の概要

施設名	横浜みなとみらいホール
所在地	横浜市西区みなとみらい 2-3-6
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下 1 階地上 7 階建て
敷地・延床面積	専有延べ床面積 18,688 m ²
開館日	平成 10 年 5 月 31 日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町 2 産業貿易センタービル 1 階
代表者	理事長 近藤 誠一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成 10 年 2 月 1 日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

1. 横浜みなとみらいホールの基本方針及び横浜市が進める「文化芸術創造都市」の施策に沿って、企画性が高く新しい視点を提供することによって国内有数のコンサートホールとしての独自の存在感を高めていきます。それと同時に音楽の持つ力によってもたらされる憧れや喜びを市民の方が最大限に享受し、夢を実現できる場所として愛されるコンサートホールであり続けることを大切にします。これまでの経験とノウハウも総動員しながら第 3 期の提案書に示した各使命を果たし、豊かな市民生活を支えるとともに、今後直面する様々な課題をも解決していくために、次の 5 つの方針で横浜みなとみらいホールの運営に取り組めます。

方針 1 あらゆる世代の市民が創造性を発揮し活力のある持続可能な社会を支えます
「演奏する」、「聴く」、「制作する」という立場の垣根を意識せず、柔軟に自由に音楽と接する機会を増やし、演奏家の創造性を高め、主体的に音楽を楽しむ市民の方を増やします。第

三期指定管理期間は、演奏家が“ミュージシャン・プロデューサー”となって公演や事業を制作する取組を行っていきます。プロによる公演のほかに市民の方の利用率がとても高いことも当館の特徴です。指定期間を通じて、「制作する演奏家」と「演奏する市民」を応援し、増やしていくことで、年齢や性別、既成の立場に関係なく、心を柔軟にし、新しい発想を生み出す土壌を育み、活力ある社会の実現を目指します。

方針2 次世代育成や社会包摂に対する取組をさらに発展させます

年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的な状況等に関わらず、誰もが心豊かに暮らせる社会を支えるために、音楽は大きな力を発揮します。当館では、これまでも障害のある方が参加する事業を積極的に行ってきましたが、これをインクルージョンという視点で、音楽の力をさらに活用し、さらに様々な立場の人々への取組に広がっていきます。

方針3 困難な状況において音楽がいかに人々の心を支えていくものであるかを示します

感染症の影響によって、音楽活動だけでなく、人々とのふれあいによる心の安らぎが触まれないことがないよう、市民の方が生の音楽に触れ、感受性や想像力を育む機会を作り出します。指定期間を通じて、小さな演奏規模のコンサートや臨場感のあるオンライン配信による音楽体験など、あらゆる工夫で臨機に対応できる運営を目指します。

方針4 高い芸術性と創造性を発揮し街の魅力を発信するブランドとなります

住む人、働く人がこの街を誇りと感じられる価値と魅力を発信するブランドとしての信頼を形作り、国内外で高い評価を受ける演奏者が更に創造性を発揮する機会を作り、また、次世代を担う若者が公演の企画や運営を継続することで、高い芸術性と創造性が発揮されるコンサートホールとしての信頼を確立します。ユニークベニューとしてのMICE誘致への協力も含め、好循環を生み出すことを目指します。

方針5 市民が生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります

質の高い生の芸術が生み出される瞬間に立ち会い、そこでしか感じることでできない刺激に感性が触れることによって聴く力、観る力、感じる力が育まれます。横浜みなとみらいホールは、年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、このような経験によって、市民の方が生きる喜びを感じ、多様な価値観を得ることで、生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります。

(2) 令和6年度の業務の方針

ア 全体について

令和6年度は、令和4年度のリニューアルオープンや横浜音祭り、令和5年度の開館25周年記念事業など、これまでの盛り上がりをもとに、次の飛躍に向けた各使命の足固めと取組みの深化に努める年度としました。使命の掘り下げと広報活動の連動により、市内唯一の公共コンサートホールとしての取組みの意義や社会的価値を広く発信することができました。また、各使命を着実に達成したことにより、次年度以降の発展につながる道筋をつくりました。

主催事業では、プロデューサー・イン・レジデンスを中心に、反田恭平を第2代プロデューサーに迎え、4つのテーマ（ホールの魅力発信・独自企画への挑戦・次世代育成・共生社会）を軸に事業を展開し、国際的ネットワークを活かしてテーマの深化を図りました。

次世代育成事業では、子どもたちが多様な形でホールに関わる機会が定着し、活動の広がりや行動の深化が見られるようになっていきます。

インクルージョン事業では、障がいや年齢を越えて、あらゆる市民が音楽を楽しめる環境づくりに取り組みました。この他、シニア・特別支援学校生徒とその保護者対象の事業など、多彩なプログラムを様々なステークホルダーと協働で実施したことで、インクルージョン事業を推進するホールとしての認知拡大と次年度以降の新たな展開につなげました。

また郊外文化施設への企画提供やみなとみらい地区の公共空間イベントで、独自性・企画性の高いコンテンツを展開したことで、地域に賑わいを創出するとともに、横浜の音楽文化拠点としての存在感を示しました。

広報活動では、事業チームとの連携を強化し、ホールの魅力や取組みの意義を多角的に発信しました。

施設運営では、人材育成やバリアフリー対応を推進しました。また、貸館事業ではホールの個性や魅力が発揮される公演を協力公演として誘致。主催事業との相乗効果も発揮するとともに、経営の安定化にも貢献しました。

施設管理では、危機管理マニュアルの見直しや避難訓練コンサートの実施を通じて、安全・安心な施設運営を広く発信しました。また、月次分析による執行管理を徹底し、持続可能な経営を実現しました。

イ 使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。

プロデューサー・イン・レジデンスを軸に、独自性・企画性の高いプログラムを発信し、今後の横浜の音楽文化の発展につながる取組みを展開しました。第2代プロデューサー反田恭平と共に、事業の柱《ホールの魅力発信・独自企画による挑戦・次世代育成・共生社会》を深め、反田の国際ネットワークも活かした世界の音楽シーンと出会う機会を届けました。歴史ある事業（Just Composed・横浜市招待国際ピアノ演奏会・オルガン事業）では、市民に高質な鑑賞体験を提供するとともに、令和7年度以降の発展につながる取組みも始動しています。横浜らしい新企画「Brilliant Jazz Pianist」や「石田組 年末感謝祭」では、ジャンルを越えた音楽の魅力を広く発信し、市民の多様なニーズに応えました。

ウ 使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動の場を提供します。

貸館事業は主催事業との相乗効果で、多彩なプログラムを届けるとともに、経営基盤安定化に大きく貢献しました。シンフォニーホールとしての魅力を発揮する在京オーケストラ定期公演や国内外の一流演奏家による話題の公演を協力公演として積極的に誘致したほか、全国規模の吹奏楽・合唱祭などフェスティバル利用も受け入れてプログラムを彩り、横浜の音楽文化発信拠点としての一翼を担いました。市民利用では、丁寧な対応・適切なコーディネートで、高い満足度4.9点（5点満点）を獲得しました。

エ 使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

長期的視野で取り組む次世代育成事業では、音楽を”楽しむ””つくる””演奏する”の其々の立場から、子どもたちの音楽体験の機会を提供。子どもたちが自立的に行動したり、ホールを「第三の居場所」として愛着を感じたり、音楽大学に進学する子どもも見られるようになっていきます。「金の卵プロジェクト」から輩出された若手演奏家が、主催事業に出演したり、郊外文化施設の開館公演に登場したりなど、人材の循環も進んでいます。

オ 使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人達が音楽に触れる機会を創出します。

これまでの社会包摂事業の蓄積を深めるべく、障がい・年齢を越えてだれもが安心して音楽を楽しめる「リラックス・パフォーマンス」を実施。事前研修や多様なサポートツールなど新たな知見を得る機会となり、令和7年度の市内文化施設や他都市（福井県）へのノウハウ共有・企画提供につなげました。また、大学との連携で取り組むシニア対象の「だれでもピアノ®」を活用したレッスンでは、参加したシニアに、コミュニティ形成など前向きな行動が現出しており、楽器演奏とウェルビーイング向上の関係を探る、文化的処方に向けたデータ取得・解析が進行中で

す。

カ 使命5 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献します。

みなとみらい地区の公共空間・郊外文化施設において、企画性の高い独自コンテンツを展開したことにより、市域の音楽文化の活性化や賑わい創出、ホールのプレゼンス向上につながりました。メディアとの顔の見える関係づくりに務めた広報活動では、事業趣旨・取組み価値を捉えた発信によって、ホールの魅力・活動意義の露出につながりました。

横浜市消防音楽隊・消防局・総務局危機管理室の協力を得て実施した「避難訓練コンサート」は、市民とともに防災について考え、安心安全なホールを広く発信する機会となりました。この他、防災マニュアルの見直し・カスタマーハラスメント対応検討・適切な設備の維持管理を行い、安全安心かつ快適なコンサートホールを提供しました。

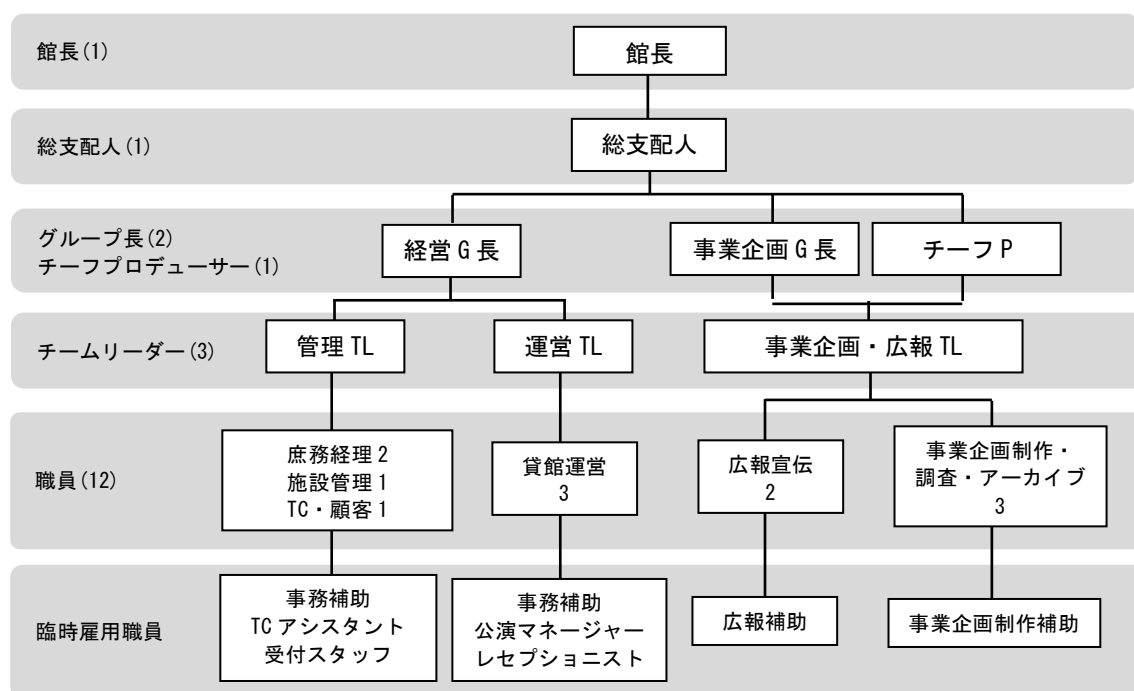
4 運営組織の構造、人員配置

(1) 運営組織の構造

機能的な組織構築の一環として、事業企画グループ長とチーフプロデューサーを、兼務から2名体制に変更、同グループのチームリーダーを事業企画・広報を担当する1名としました。

企画制作面の専門性発揮・人材育成とともに、各事業・広報の進捗や勤務状況に応じた組織管理、経営判断に資する体制としました。

経営グループは引き続き、施設管理、経理、庶務労務、チケットセンターを担う管理チームと、貸館を主とする運営チームの体制とし、レセプションист、受付スタッフを統括管理し、安全で質の高いサービス維持に努めました。



G 長…グループ長 TL…チームリーダー P…プロデューサー TC…チケットセンター

(2)人材育成

接客サービスレベル向上のため、レセプションист及びチケットセンタースタッフの新規採用時研修や、フォローアップ研修を適切に実施するほか、業務の基準及び提案書に則り施設運営に不可欠な人権研修、個人情報保護研修などを実施しました。

5月には改正障害者差別解消法の改正について理解を深めるとともにバリアフリーの実践を目的に、専門家を招きレセプションистを含むホール内全スタッフ対象に「サービス介助研修」を実施しました。直接接客に携わるスタッフのみならずサービスを企画する職員が、障害について改めて学ぶ機会となりました。

このほか、県公文協が主催する「ミュージアムと合理的配慮」「劇場におけるドローンの活用について」に参加するなど専門施設のスタッフとして必要となる技術的な理解を深めました。

(3)専門会社への業務委託

舞台・音響・照明、設備運転監視、清掃、警備、楽器（ピアノ・オルガン）保守等の各業務については、専門会社へ委託しました。各社担当者とは定例的または必要に応じた打ち合わせの場を設け、情報交換や現場での課題の共有を行いました。

特に来館者とスタッフの安全や、利用の停止につながるような事故を未然に防ぐなど、ホール運営にかかる様々な課題の解決に取り組みました。

5 使命の指標の達成状況と重点取り組み事項

（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

- （1）使命 1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目			R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	ホール における ジャンル別 の公演回 数及び入 場者数	公演 数	クラシカ ル	35 本	27 本	41 本	36 本	—	31 本	—
			ポピュラ ー	3 本	2 本	6 本	4 本	—	2 本	—
		入場 者数	クラシカ ル	21, 230 人	32, 000 人	39, 207 人	34, 279 人		40, 000 人	
			ポピュラ ー	2, 514 人	2, 500 人	6, 695 人	5, 826 人		3, 000 人	
2	横浜みなとみらいホール ならではの企画数			12	10	19	14	—	12	—
3 ★	プロデューサー・イン・ レジデンス事業			4	6 事業 (累計)	8 事業 (累計)	13 事業 (累計)	—	15 事業 (累計)	—
4 ★	新作委嘱作品と過去委嘱 作品再演本数			4	4 作品 (累計)	8 作品 (累計)	11 作品 (累計)	—	10 作品 (累計)	—
5 ★	おとなポップス公演数			0	2 企画 (累計)	3 企画 (累計)	5 企画 (累計)	—	10 企画 (累計)	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	横浜みなとみらいホール の事業モニター（※） による評価	R 4 実績	リニューアル記念事業 3 公演で事業モニター実施 （10/29 神奈川フィルハーモニー管弦楽団、11/3 井上道義 指揮 NHK 交響楽団、11/25 近藤岳オルガン・リサイタル）
		R 5 達成指 標	4 つの事業に対し、事業モニター実施（リニューアルオー プン事業（2022 年のみ）、おとなポップス、オルガン・コ ンサート・シリーズ、ジルヴェスターコンサート、クラシ ック公演（2023 年以降））
		R 5 実績	4 事業に対し事業モニター実施（4/21 横浜うたまつり、 5/10 ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、6/9 Dive into the Future、12/31 石田組年末感謝祭 2024） 事業モニター懇談会を併せて実施
		R 6 実績	4 つの事業に対し事業モニター実施（8/17 Brilliant Jazz Pianist 塩谷 哲コンサート、10/27 ジャン・フィリップ・ メルカールト オルガン・リサイタル、11/16 第 42 回 横浜 市招待国際ピアノ演奏会、12/31 石田組年末感謝祭 2024） 1/19 事業モニター懇談会を併せて実施
		R 7 実績	—
		R 8 達成指 標	モニタリングの結果、対応すべき事柄について事業に反映 されている
		R 8 実績	—
2	横浜みなとみらいホール の事業等のアーカイブ 作成と公開	R 4 実績	アーカイブ立ち上げに向けた準備、資料整理
		R 5 達成指 標	アーカイブの立ち上げ（データの整理・公開までの仕組み が確立される）
		R 5 実績	ウェブサイトデジタルアーカイブページ作成。「横浜市招 待国際ピアノ演奏会デジタルアーカイブ」公開
		R 6 実績	「Just Composed in Yokohama デジタルアーカイブ」公開
		R 7 実績	—
		R 8 達成指 標	アーカイブ更新・運用（適宜、動画公開。対象事業の認知 拡大・事業趣旨の理解が深まる）
		R 8 実績	—

ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組む事項

- 令和 6 年度のプロデューサー・イン・レジデンス事業では、2 年目の反田恭平とともに、「創造性」「次世代育成」「共生社会」の方針を基盤に、ホールのリソースと反田の国際的ネットワークを融合させた企画を展開しました。横浜初のソロ・リサイタルやオーケストラ公演は満席となり、芸術性の高い音楽体験を提供しました。世界的指導者ミハイル・ヴォスクレセンスキー氏を招聘したマスタークラスや公開リハーサルは、若手演奏家支援と市民への学びの機会となり、次世代に刺激を与える機会になりました。また、任期振り返りや次期プロデューサーの発表を通じて、事業への理解と期待を高める発信にも努めました。
- 新規企画「Brilliant Jazz Pianist」では塩谷哲氏を迎え、地域性と独自性を融合した創造的な公演を実施しました。週末昼間にジャズを楽しむ時間を提案し、クラシックと異なるジャンルの可能性を拓くとともに、Super Big Band との共演はホールが取り組む育成事業を印象付けました。
- 大晦日公演「石田組年末感謝祭」は 2 回公演完売し、顧客満足度 98% と高評価を得て、ホールの新たな恒例行事として定着しています。「金の卵プロジェクト」参加者の出演やリクエスト・コーナー、地域連携による宿泊プランなど、多角的な工夫により事業の充実を図りました。

- ・オルガン事業では、普及から本格的なリサイタルまで幅広い公演を展開し、年間 12,000 人を超える来場者にパイプオルガン Lucy の魅力を届けました。「オルガン・リサイタル・シリーズ」では「ノートルダム大聖堂復興」をテーマに、音楽を通じ社会的関心の喚起を図るとともに、演奏者の手元やペダリングの投影、歴史背景の紹介など、鑑賞体験を深める工夫も好評を得ました。開館以来継続する「オルガン・1 ドルコンサート」は 250 回を迎え、記念公演ではパネル展示やプレトークを実施し、市民と共に節目を祝いました。

エ 使命 1 の令和 6 年度実績、成果及び課題

実績 (アウトプット)	No	使命達成の具体的取組(提案書)	年度目標	実績
	1	「プロデューサー・イン・レジデンス」事業 ①公演実施(ジャパン・ナショナル・オーケストラ) ②全ての鑑賞者に開かれた演奏会 ③次世代育成に対する取組	各 1 回	①1 回 ②2 回(1 事業) ③1 事業 ④新規 4 回
	2	おとなポップス(ジャンルを越えた展開)	1 回	2 回(3 公演)
	3	Just Composed in Yokohama ①公演実施 ②レクチャー等関連事業	①1 回 ②実施	①1 回 ②実施
	4	オルガン・コンサート・シリーズ ①オルガン・サイタルリーズ 47 ②クリスマス・パイプオルガン・コンサート 2024 ③オルガン・1 アワーコンサート ④オルガン・1 ドルコンサート	①1 回 ②1 回 ③3 回 ④6 回	①1 回 ②1 回 ③3 回 ④6 回(8 公演)
	5	パイプオルガンと横浜の街(アーカイブ整理)	実施	実施
	6	横浜市招待国際ピアノ演奏会 ①公演実施 ②交流イベント	①1 回 ②実施	①1 回 ②実施
	7	ジルヴェスターコンサート (※石田組 年末感謝祭ヘリニューアル)	1 回	1 回 2 公演
	8	主催公演アーカイブ化 (R6 は Just Composed アーカイブ公開)	公開	公開
	9	使命を達成するための主催・共催公演等 ①共催公演(N 響オーチャード定期:3 回 パ・ヴ・オ・メ・ド・イ・ツ・カンマー、キーン:各 1 回) ② 事業モニターによる評価	①5 回 ②実施	①5 回 ②実施 ③新規 4 回(5 公演)
※ 詳細は令和 6 年度事業評価表参照				
成果 (アウトカム)	・「ホールにおける公演数」は、クラシカル・ポピュラーとも最終年度の達成指標を超える公演数を実施しました。事業を見直し公演数を抑制したため、入場者数は前年度を下回ったものの、クラシカルとポピュラーを合わせた 1 公演あたりの入場者数は昨年度を上回りました。 ・プロデューサー・イン・レジデンスでは、反田恭平の国際ネットワークを活かした企画が次世代育成や社会包摂にも及ぶスケールの大きなプロジェクトになりました。「本当に素晴らしかった。演奏だけでなく、解説あり、ウェルカムミュージックあり、来た人にもっと届けようという心意気に感銘を受けた」「横浜の誇るべきホール」「とても良心的、本当に若い才能の育成を考えていると感銘を受けた」「音楽の力で自閉症のうちの子は言葉が出始めたので、この様な機会があったらまた参加したい」など、横浜の音楽文化拠点に相応しい評価を得ました。来場者満足度も 89%と前年度の「25 周年音楽祭」の満足度 88%を上回りました。			

	・1月実施の事業モニター懇談会では、「クラシックのウエイトが多くなるのは当然だと思いますが、（Jazz のような）枠を広げた形のコンサートを今後も続けてほしい。」「総合的に特徴があり、学術的な見地に立った方がしっかりと構成された上で、面白い企画を毎回よく考えていると思っています」といった意見が聞かれ、使命1が目指す「市民への多様な音楽に親しむ機会提供」「国内外から評価を受ける創造・創作拠点となる」の実現に向けての成果と捉えています。
課題	・プロデューサー・イン・レジデンス事業で選定されたプロデューサーが2年の任期中に築いたホールでの存在感や市民とのつながりを、活動終了後も活かしていくことを検討しています。令和6年度はそのモデルとなりうる事例として、初代プロデューサーの藤木大地とともに企画した「みなとみらいクインテット」が「ラ・フォル・ジュルネ 2024」に招待されるという、効果がみられました。

(2) 使命 2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動を提供する。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	各諸室の利用率（コマ単位、日単位	大ホール（日単位）	100%	97%	95%	94%	—	97%	—
		小ホール（日単位）	98%	97%	98%	95%		98%	
		リハーサル室（日単位）	81%	68%	62%	63%		71%	
		音楽練習室（コマ単位）	60%	82%	70%	78%		85%	
		レセプションルーム（コマ単位）	33%	35%	32%	33%		40%	
2	プロフェッショナルのオーケストラ、アーティストの指定管理者以外の公演数		81	90	95	105		100	
3★	利用下見・相談件数		55 件	150 件	107 件	127 件	—	150 件	—
4★	利用者アンケートによる満足度（5 点満点）		ホール 4.8 練習室 4.3	4.7 以上	4.8	4.9	—	4.7 以上	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	市内音楽団体の活動状況把握	R 4 実績	実施せず
		R 5 達成指標	市内音楽団体リスト整備・運用
		R 5 実績	施設予約システム内に蓄積整備している施設利用者の利用履歴や演奏曲目、公演運営の状況、来場者数などのリストを拡充するため、約 500 団体に対して調査を実施(回答数 156 件)
		R 6 実績	利用者懇談会実施 (7 団体 8 名参加)
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新とともにホール利用時の助言等に生かす
		R 8 実績	—

ウ 使命 2 を達成するために重点的に取り組む事項

- ・利用団体との懇談会を開催し、活動上の課題やホールへの期待について意見交換を行いました。利用者側が感じている主な課題として、「演奏会や練習会場の確保が困難であること」特に「利用率が高く、希望日になかなか当選出来ない」でした。抽選方法の改善や市民団体への優先利用などの要望を受け、使命 2 の方針に照らし合わせ、今後の対応策を検討していきます。
- ・令和 6 年度は、日本フィルハーモニー交響楽団と神奈川フィルハーモニー管弦楽団の横浜定期演奏会がともに 400 回を迎える記念の年となりました。読売日本交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団も定期演奏会・特別演奏会を実施していただいております、クラシック専門ホールである当館にとっては、大切なパートナーです。今後も協力関係を深め、国内プロオーケストラの演奏会を誘致・実施することで、ホールとしての存在感を高めていきます。

エ 使命2の令和6年度実績、成果及び課題

項目	協力公演の誘致
実績 (アウトプット)	・協力公演誘致 年間 148 公演（うち、105 公演がプロフェッショナルのオーケストラ、アーティストによる公演） ・国内プロフェッショナルオーケストラ 定期公演・特別公演の実施 神奈川フィル、日本フィル、読売日本交響楽団、東京交響楽団、新日本フィル等 ・地元の音楽事業者、団体との連携 みなとみらいアフタヌーンコンサート、華麗なるコンチェルトシリーズ、よこはまマリコンコンサート、横浜バロック合奏団等、地元の音楽家 ・横浜市の文化政策との連動 横浜開港式典、横浜文化賞贈呈式&記念コンサート、クラシックヨコハマ等、横浜市の文化政策との連動。 ・育成事業への協力 全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜、かながわ音楽コンクール等 ※詳細は令和6年度事業評価表参照
成果 (アウトカム)	・令和4年度に実施した市内音楽団体の活動状況調査で見えてきた課題について、ご利用者から直接意見を伺う機会として利用者懇談会を実施しました。参加団体同士での情報交換も行われ、「市内の音楽団体の活動状況把握」およびリストの整備における貴重な情報が得られました。 ・協力公演として、新たに市民団体が主催する合唱祭や横浜が誇る吹奏楽コンクールなどの大規模なフェスティバル事業を誘致し、使命2で掲げている「市民文化団体の音楽活動」の支援につなげました。 ・ホールでは日ごろからスタッフが丁寧な利用者対応を心掛け、経験別のレセプションニスト研修、チケットセンター研修、舞台スタッフとの定例会議実施など、高いホスピタリティが維持できるよう取り組んでいます。これら日ごろの取り組みが実を結び、利用者満足度4.9と高評価につながりました。
課題	・横浜みなとみらいホールは国内外の一流演奏家の演奏を楽しむ場であるとともに、市民の文化活動を支援する場所でもあります。協力公演の誘致はこれら両面のバランスを見ながら受けていきますが、土日の希望が多いことも事実です。今年度開催の利用者懇談会においても、当ホールの施設予約の抽選倍率が高く、希望日が取れないとの声が多く聞かれました。協力公演の優先枠において、バランスを考慮しながら、土日以外の利用も促進していくことを課題と捉えています。

- (3) 使命 3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げる。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	子ども（高校生以下）の来館者数	27,797人	主催公演 35,000人	31,084人	33,077人	—	主催公演 40,000人	—
2	初めて横浜みなとみらいホールを訪れた人の割合（世代別、アンケート結果）	20.3%	全世代 20%	全世代 34%※ (27%)	全世代 23%	—	全世代 20%	—
3 ★	こどもの日コンサートの企画に参加した中学生の人数	27人	30人 (累計)	57人 (累計)	77人 (累計)	—	40人 (累計)	—

※令和5年度はデータ集計対象を子ども事業に限定して算出。全事業対象に算出した数値はカッコ内

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもの頃や若手の頃に横浜みなとみらいホールで活動を行い、横浜みなとみらいホールから活躍の場を広げていったアーティストの状況把握	R 4 実績	調査
		R 5 達成指標	アーティストリスト作成（現状の把握）
		R 5 実績	「金の卵」ソリストオーディション受賞者（83名）調査およびリスト作成。 リストを元に令和5年度・令和6年度自主事業への登用を検討・実施。 （令和5年度2/12「ランチタイムコンサート」、3/24「2525コンサート」、令和6年度「ハマのJACKスペシャルコンサート」）
		R 6 実績	「金の卵」リスト更新。「Super Big Band」卒業生（音楽分野に進んだ生徒）リスト作成。リストを元に令和6年度・令和7年度自主事業への登用検討・実施。 （6/12 ハマのJACKスペシャルコンサート、10/19 Showcasing New Talents of JAZZ、11/17 Live!横浜「埋立地での音楽」3/16 ボッシュホール開館記念コンサート東亮汰&ハマのJACKオーケストラ）
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新・主催事業への起用（MMH ゆかりの人材の還流・認知拡大）
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

- ・「こどもの日コンサート」では、中学生プロデューサーが公演制作を通じて、社会性と創造性を育みました。活動も5期目に入り、経験者が活動を主導するなどの好循環が生まれています。中学生のアイデアを活かした公演は2公演完売となりました。プログラム改善のための振り返りや、他ホールの育成事業担当者との情報交換会議を行っています。
- ・「みなとみらい遊音地」では4日間で延べ5,000人以上が来場し、市民の音楽への親しみを広げました。初めて開催した「オルガン&ホール探検!」は、体験と鑑賞を組み合わせた内容で好評を得たことから次年度も継続予定です。
- ・横浜市内全小学生が体験する全国的にも貴重な鑑賞教育プログラム「心の教育ふれあいコンサート」の魅力発信に努めました。一般開放席のチケット料金改定による、長期的視野での事業改善にも取り組みました。

エ 使命3の令和6年度実績、成果及び課題

実績 (アウトプット)	No	使命達成の具体的取組(提案書)	年度目標	実績
	1	中学生プロデューサー/こどもの日コンサート ①「こどもの日コンサート」実施 ② 中学生プロデューサー募集及びこどもの日コンサート実施に向けたWS 実施	①1回2公演 ②実施	①1回2公演 ②実施
	2	近隣大学との連携 ①近隣大学からのインターンシップの受け入れ ②近隣大学生徒によるインクルーシブ事業ファシリテーターの育成	①通年 ②実施	①実施 ②1回 ③新規1回
	3	ホールオルガニスト制度 ①ホールオルガニスト制度の継続 ②第20期オルガニストインターン ③10代のためのパイプオルガンレッスン	①通年実施 ②実施 ③実施	①通年実施 ②実施 ③実施
	4	みなとみらい Super Big Band ①他会場含め演奏会への出演 ②原則週1回の練習実施(RH室等)	①出演5回 ②通年実施	①7回 ②通年実施
	5	横浜に生まれ育った人が必ず体験する音楽鑑賞体験を確実、効果的に実施 ①心の教育ふれあいコンサート ②第14回「金の卵みつけました」オーディション、演奏会 ③ハマのJACKのサロンコンサート ④インターン受け入れ	①10日間 20公演 ②各1回 ③1回 ④実施	①10日間 20公演 ②各1回 ③1回2公演 ④実施
	※詳細は令和6年度事業評価表参照			
成果 (アウトカム)	・当館の次世代育成事業は長年に亘って実施しているものですが、次代の音楽文化を担う演奏者育成が成果として表れています。「金の卵プロジェクト」「みなとみらい Super Big Band」から見出されたアーティストのリスト化により、自主事業への積極的な起用を行っています。 ・2025年開館のボッシュホール（都筑区民文化センター）開館記念公演の制作を当ホールが担い、都筑区出身で「金の卵プロジェクト」輩出のヴァイオリニスト東亮汰が起用され、即日完売の大好評を博しました。			

課題	・長期で実施している育成事業において、指導者の世代交代が課題となっています。卒業生の起用などを進めていきます。 ・オルガン事業では、音楽大学からオルガン科が減少し、学生が減少するなか、オルガニストを志す人材の種をまき、人材を確保していくことは容易ではありません。大学や関係者と危機感を共有しながら取り組みます。
----	--

(4) 使命 4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人たちが音楽に触れる機会を創出する。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	3 事業	5 事業	6 事業	4 事業	—	3 事業	—
2	学校等へのアウトリーチの実施数	5 事業	5 事業	7 事業	6 事業	—	5 事業	—
3 ★	特別支援学校との協働プロジェクト数	1 件	2 件	2 件	4 件		2 件	
4 ★	支援学級との協働プロジェクト数	1 件	4 件	3 件	3 件	—	2 件	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	あらゆる方に音楽に触れてもらうためのノウハウの蓄積	R 4 実績	これまでの取組整理
		R 5 達成指標	マニュアル作成（ノウハウの見える化・施設内共有）
		R 5 実績	インクルーシブ事業一覧作成および、事業実施マニュアル作成。文化施設などへの提供や他都市での事業実現への相談対応等を開始。
		R 6 実績	インクルーシブ事業視察を誘致し、主に県内のホール等へ取り組みを共有。福井県立音楽堂へマニュアルを共有。
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	マニュアル更新（区民文化センター等とのノウハウの共有）
		R 8 実績	—

ウ 使命 4 を達成するために重点的に取り組む事項

・「リラックス・パフォーマンス」を東京文化会館と協働で初めて開催し、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して音楽を楽しめる環境づくりに努めました。多様な鑑賞支援を導入し、0歳児から聴覚・視覚障がいのある方までが同じ空間で音楽を共有しました。プレイベントでは、東京藝術大学と連携し、聴覚障がい者向けワークショップを実施し、身体を使った音楽表現の機会を創出しました。また、県内を中心に全国から 14 の公立施設が視察に訪れ、インクルージョン事業を推進する先進的なホールとして注目を集めました。

- ・「だれでもピアノ®」を活用し、子ども対象の体験やシニア向けのレッスンを展開しました。実施にあたり、大学連携による学生ファシリテーターを養成しインクルージョン事業に関わる人材育成にも取り組んでいます。シニア向けのレッスンでは令和5年度から引き続き、文化的処方の実証・社会実装を目指して東海国立大学機構との連携により、シニアの楽器演奏とウェルビーイングの関係性を科学的に検証しています。事業を通じて、音楽を通じた交流がコミュニティ形成に寄与する事例も見受けられました。
- ・中学生、特別支援学校・支援級対象の公開リハーサルでは、反田恭平の導きで482人がオーケストラ演奏を体験しました。特別支援学校向け公開リハーサルでは、保護者から0歳までの付き添い家族もともに演奏を楽しめる、貴重な機会を提供しました。そのほか、盲特別支援学校生徒を迎えてのオルガン体験・同校へのアウトリーチ等、あらゆる市民が音楽に触れる機会を創出しました。

エ 使命4の令和6年度実績、成果及び課題

実績 (アウトプット)	No	使命達成の具体的取組(提案書)	年度目標	実績
	1	先端的な事業を東京藝術大学と連携して実施 ①だれでもピアノ®体験 ②リラックス・パフォーマンス 【東京文化会館提携公演】	各1回	①1回 ②1回 ③新規1回
	2	横浜みなとみらいホールらしいインクルージョンの取り組み ①横浜 WEB ステージで制作したコンテンツを継続公開 ②市民オープンイベントとして「みなとみらい遊音地」	①通年公開 ②実施	①通年公開 ②実施
	3	横浜市内との学校連携を通じて、あらゆる人が音楽に触れるための課題を共有 横浜市芸術プラットフォーム 学校プログラム実施、実施校数	①4校	①3校4事業 ②新規2事業
	4	横浜みなとみらいホールの音を様々な場所にお届けする(無人オーケストラ等)	実施	実施
	5	仮想フェスティバル 「横浜 WEB ステージ」	コンテンツ 継続公開	コンテンツ 継続公開
	※詳細は令和6年度事業評価表参照			
成果 (アウトカム)	・ 定量指標としている学校等へのアウトリーチ、特別支援学校・学級との協働プロジェクト数ともに最終年度の目標値を超えて実施しています。 ・ 東京文化会館と協働で初めて開催した「リラックス・パフォーマンス」は、あらゆる方が楽しめる包摂的なプログラムであること、最先端の多彩な鑑賞支援を導入したことなどで、県内を中心に全国から14の公立施設が視察に訪れました。また、「だれでもピアノ®」の取り組みは産学連携の社会的な取り組みとして、日本経済新聞や東京新聞等で意義をご紹介いただきました。 ・ これらを通じて、インクルージョン事業を推進する先進的なホールとして、横浜みなとみらいホールの存在感を高めることにつながるとともに、使命4を実現する成果にむすびついています。			
課題	・ インクルーシブ事業には丁寧な対応と様々なサポートが必要です。限られた人員体制でどこまで対応可能か検討していきます。			

(5) 使命 5 利用者の視点に立ち、継続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献する。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件	0 件		0 件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%	100%		100%	—
3	修繕予算の執行率	104%	90%	426%	114%		90%	—
4 ★	施設・設備の更新状況を把握し、事業継続計画策定	危機管理マニュアル作成	危機管理マニュアル再整備	危機管理マニュアル再整備	危機管理マニュアル改定・全体説明会実施		危機管理マニュアル検証	
	災害マニュアルに則った災害訓練	1 回	2 回	3 回	2 回		2 回	
5 ★	地域における連携先の開拓（施設、企業）	4 件	1 件 (累計)	7 件 (累計)	8 件 (累計)		5 件 (累計)	
6	S N S フォロワー数(X)	11,181 ※R5 年 2 月現在	8,000	11,400 ※R6 年 3 月末時点	12,364 ※R7 年 3 月末時点	—	10,000	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング（アンケート調査、インタビュー調査の実施）	R 4 実績	アンケート調査実施
		R 5 達成指標	利用者懇談会など実施
		R 5 実績	事業モニター参加者との懇談会を実施。また、利用者へのアンケートを継続実施するとともに、市内音楽団体の活動状況調査結果を基に、テーマを設けてヒアリング（懇談会）の実施を検討中。
		R 6 実績	事業モニター参加者との懇談会を実施。 また、前年度に実施した市内音楽団体の活動状況調査から見てきた、ホールとして「取り組むべき課題」をテーマとした利用者懇談会を実施。更に、緊急時に必要な対応や心構えを考える機会として、同日に開催された「避難訓練コンサート」にも主催者としての視点でご参加いただいた。
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	ヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
		R 8 実績	—

2	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	改修工事後の光熱水費等のデータ収集
		R 5 達成指標	実施（労務単価やエネルギー単価など外的要因の動向、月々の光熱水費使用量を逐次把握し、過去データと比較分析を行う）
		R 5 実績	労務単価やエネルギー単価など外的要因の動向を把握し専門業務委託設計時に反映。光熱水費について月々の電気、冷温水、水道使用量を逐次把握し、過去データと比較分析を行いながら年度の執行計画に反映し余剰分を適切に活用した。
		R 6 実績	前年度に続き毎月の電気、冷温水、水道使用量の逐次把握と前年度同月比較を実施した。 単価上昇、夏季の猛暑等の影響で、光熱水費全体として前年度から約 10%増となったが、設備スタッフと連携した適正な空調制御の実施、スタッフ全体に対する無駄な空調、照明等の徹底見直しを呼びかけた。
		R 7 実績	－
		R 8 達成指標	総括（管理運営費に関わる外的要因を踏まえて適切に契約を執行するとともに、光熱水費使用量の分析結果を全館空調の制御等に活かしている）
		R 8 実績	－
3	リニューアルオープンに際してのウェブサイトでのアピール	R 4 実績	実施（ウェブサイト更新）
		R 5 達成指標	実施（ウェブサイト更新 情報更新等に関わる取扱マニュアル作成）
		R 5 実績	実施。ウェブサイト更新マニュアルを作成。これにより、ホールスタッフのみならず、利用者による入力が見やすに行われ、お客様への円滑な情報提供が可能となった。
		R 6 実績	実施。利用者の声を反映しながら、ウェブサイト CMS を改訂。
		R 7 実績	－
		R 8 達成指標	継続（必要に応じてマニュアルが更新され、ユーザビリティの一層の向上が実現している）
		R 8 実績	－
4	横浜みなとみらいホールに関するコメントの把握	R 4 実績	コメント把握
		R 5 達成指標	把握（来場者・利用者のコメントを把握するスキームの確立）
		R 5 実績	ホール代表メールに寄せられたご意見、レセプションに寄せられたご意見、自主公演アンケートに寄せられた各種ご意見について随時担当者が確認。週次の会議にて協議し迅速な対応を行っている。
		R 6 実績	代表メールや自主公演アンケート、現場のレセプションが受けた各種ご意見については必要に応じて迅速な対応を行う仕組みが出来ている。また、電話対応を請け負う受付スタッフがご意見を受けた際に記載する「苦情・ご意見対応記録」を新たに作成して情報を共有し、対応者不在でも概要が把握できることで、よりスムーズな対応が可能となった。
		R 7 実績	－
		R 8 達成指標	総括（多様なコメント・問い合わせに対し、スムーズに対応できている）
		R 8 実績	－

5	リニューアルオープンに向けてのスタッフ育成	R 4 実績	レセプションист採用研修、フォローアップ研修実施
		R 5 達成指標	研修実施等（スタッフの経験に応じた研修計画が立案・実行されている）
		R 5 実績	レセプションист研修について計画に基づき適切に実施（新人、コーチャー、チーフ研修、スキルアップ研修、防災訓練等基本研修に加えて、サブマネージャー研修、コミュニケーション研修など特別研修を実施）受付スタッフについては経験に応じたスキルアップ研修を実施。これらの研修については、社会情勢や現場からのフィードバックを計画に反映させ、必要な分野や適切な講師選定（内部・外部）の検討を行い、個々のスキルとチームワークの向上に役立てた。
		R 6 実績	障害者差別解消法改正に伴う合理的配慮の提供の義務化を受けて、専門の講師によるサービス介助研修を実施。リニューアルオープン後初めて、お客様を入れた避難訓練コンサートを開催し、緊急時の避難誘導対応の課題を再確認。
		R 7 実績	－
		R 8 達成指標	スタッフの経験に応じた研修計画が実施され、必要に応じて修正されている
		R 8 実績	－

※ 3～5 は使命 6 より移動

ウ 使命 5 を達成するために重点的に取り組む事項

- ・安全管理・危機管理については、すべての利用者、来場者が安心してコンサートホールでの時間を楽しめるよう、危険防止と危機管理に努めました。自然災害のみならずカスタマーハラスメント等の幅広い危難に対処するため、随時マニュアル類の見直しを行うとともに、所管局、警察署、消防署等への情報共有と相談に努めました。
- ・横浜市消防音楽隊の出演と総務局危機管理室の協力で「避難訓練コンサート」を 5 年振りに開催しました。公演中に大規模地震が発生、大ホール 2F 客席（建物 3F）以上へ観客を避難誘導する想定で訓練を行い、当日は想定を超える来場者をお迎えするとともに、市内のみならず他の都県の文化施設・商業施設等のスタッフが参加し、社会全体の防災への関心の高さがうかがえました。訓練後、市民防災センター消防職員による講評、スタッフの振り返りを実施したほか、各部署の責任者が集まり、フィードバックとアンケート結果を共有し、今後の運営改善や危機管理マニュアル改善を協議しました。

【令和 6 年度に実施した主な修繕・更新】

実施主体	実施項目	実施時期
当財団	地下 1 階 排気ファンオーバーホール	R6 年 4 月
	屋上設置の大ホール排風機異音対応修繕	R6 年 6 月
	消防設備点検指摘事項対応修繕	R6 年 9 月
	建築基準法 12 条点検指摘事項対応修繕	R7 年 1 月
	大ホール音響卓 オーバーホール	R7 年 3 月
	大ホールホワイエ ウォータークーラーの更新	R7 年 3 月
横浜市	直流電源装置改修工事	R7 年 2 月

- ・音楽で都市ブランディングを目指す横浜みなとみらい 21 が設置する「Music Port YOKOHAMA」に参画し、エリア内の回遊性を高めるプロモーション等に積極的に協力しました。また、横浜市の新たなフェスティバル「Live! 横浜」等みなとみらいエリアの公共空間イベントで、独自性・企画性の高い良質なコンテンツを提供し、音楽で街の賑わいを創出するとともに、市内の音楽文化拠点としてのプレゼンス向上につなげました。

- ・広報活動全般については、公演の訴求のみならず、公共ホールとして取り組むべき課題や意義を伝えるべく文化記者との関係性構築強化に取り組み、オルガンの活用やインターンシップ、次世代育成事業、インクルージョン事業等を訴求する露出につながりました。新聞掲載は昨年比 18 件増となりました。
- ・プロデューサーやオルガニストなど出演者の協力により、SNS での配信に加え、音楽の魅力を伝える動画発信を強化しました。反田恭平と石田泰尚のプロデューサー引継ぎの対談等、長尺の素材を YouTube とウェブサイトコラムで紹介する等のメディアミックスでの発信に努めました。
- ・近隣施設と連携し Instagram でみなとみらいエリアの魅力を発信。来場者がコンサート前後を充実させ回遊性・経済波及をもたらす施策に取り組んだ結果、SNS フォロワー数も昨年度に比べ合計 5,759 増加しました。

エ 使命 5 の令和 6 年度実績、成果及び課題

項目	施設運営管理			
実績 (アウトプット)	No	使命達成の具体的取組(提案書)	年度目標	実績
	1 から 11 お よ び 14	社会の要請に応えるコンサートホール運営 安心安全を第一に考える施設維持管理 周辺施設との多彩な音楽連携に向けて 新型コロナウイルス感染症対策 必要人材の配置と機能 勤務シフト 開館時間 午前 9 時～午後 10 時 休館日 年間 31 日 人材育成と配置 チームワーク醸成 利用料金 アイデアノウハウの一層の活用	通年実施	通年実施
	12	指定管理料のみに依存しない収入構造 ①助成金・寄附金・協賛金の獲得 ②利用料金収入	①19,200 千円 ②207,850 千円	①20,199 千円 ②211,987 千円
	13	経費削減効率的運営努力 光熱水費	111,000 千円	108,595 千円
	※詳細は令和 6 年度事業評価表参照			
成果 (アウトカム)	・定量指標に見られるように管理瑕疵による事故はなく、安全なホール運営ができました。ホールの「使いやすさ、快適さ」は顧客満足度調査においても高評価をいただいています。 ・利用者懇談会や事業モニターとの意見交換においても評価いただきました。日々の不具合に対しては小破修繕を積極的に行ったことが快適性の評価にもつながっています。 ・直流電源装置のトラブルがありましたが、所管局と協力し、対応しました。 ・「避難訓練コンサート」の 5 年振りの開催は、安全なホール運営において意義のあるものでした。開催後の内部の振り返りでもスタッフの災害時の危機意識の向上にもたいへん有意義だったとの声がかけられました。 ・訓練当日は、700 人を超える多くの人の来場者をお迎えするとともに、市内のみならず他の都県の文化施設・商業施設等のスタッフが視察に訪れ、当館の防災意識の高さを発信することができました。			
課題	・開館から約 30 年を経て、建物・設備において老朽化が深刻となっています。定期点検・日常点検等で不具合のある場所や設備、機材をリスト化し横浜市と共有しています。 ・令和 5 年度、6 年度ともに設備の更新・修繕を実施していますが、突発的な設備故障等により利用者に影響が出ないよう、細かく情報を所管局に報告し			

	ていきます。 ・カスタマーハラスメントに該当する可能性のある事例が継続的にみられます。警備会社と情報共有の上、対応を検討、フローを作成しています。 ・利用許可等の条例に定められた手続きを確実に行う一方で、最近の各種サービス業の動向を踏まえ、セルフレジ等、利用者サービス向上につながる施策を柔軟な発想で検討します。
--	--

項目	「海に見えるコンサートホール」の発信力強化（広報 PR）			
実績 (アウトプット)	No	使命達成の具体的取組	年度目標	実績
	1	プレス懇談会・発表会	実施	■ 市政記者発表 12 回 ■ プレスリリース 9 回 ■ 記者発表会・取材会 3 回
	2	公式 Web サイトでのコラム配信	実施	■ コラム配信 26 記事 中学生プロデューサーレポート 4/1、18、5/16、3/5、28 ■ オルガニスト・インターンブログ 19 期 6/13、20 期 8/27・10/14・ 11/20・12/14・2/27・3/27 ■ アーティストインタビュー 6/5、9/5、12/5、3/5
	3	SNS からの発信	実施	■ X (旧 Twitter) 459 ポスト フォロワー12,364 (前年度比 964 増) ■ Instagram 102 投稿 ストーリーズ 138 投稿 フォロワー2,225(前年比728増) ■ YouTube チャンネル登録 12,850 (前年比 4,067 増)
	4	チラシ発送サービス	実施	■ 8 回送付
	5	ウェブフレンズへのメルマガ配信	実施 会員数 30,000 人	■ 41 本配信 会員数 27,706 (前年比 3,534 増)
	※詳細は令和 6 年度事業評価表参照			
成果 (アウトカム)	・リニューアルオープンや 25 周年記念を経て、安定的な運営年に入るにあたり、ホールの活動の目的や社会的意義を発信していくための広報に積極的に取り組み、事業趣旨を深く伝える露出獲得につながりました。 ・インクルージョン事業などの広報は、音楽記者会を中心とする文化記者へのメディア訪問および意見交換を行うことで、公演情報を伝えるだけでなく、問題意識の共有を行いました。 ・改修による休館および新型コロナ期間に足の遠のいた近隣在住・在勤のお客様に、ホールに再び足を運んでいただくための発信活動にも尽力しました。神奈川新聞、5 大紙地域版、タウンニュース、FM ヨコハマ等、地域媒体での露出拡大につながり、地域や近隣での当館の認知度向上につながった結果が来場者アンケート等から見られました。			
課題	お客様の接点となるメディア運用においては、最新の注意を図り事故のない発信に取り組んでいます。SNS は社会の要請を受け丁寧に運営していますが、限られた人員体制のため、実効性を考え運営していきます。			

7 令和6年度の決算

前年度（令和5年度）の赤字決算を重く受け止め、令和6年度は「足固めの年度」として、施設全体で堅実経営を目指しました。具体的な方針として、利用料金収入の予算額必達と変動要素の高い光熱水費・修繕費などの月次毎の厳密な執行管理、入場料収入をはじめ事業収入の多様化・多層化と自主事業の見直しによって、施設全体の収支基盤の再構築を行いました。結果、当初予算を上回る収入を獲得するとともに支出抑制し、黒字決算に反転させることが出来ました。

【事業収支】

- ・「こどもの日コンサート」「石田組年末感謝祭」「クリスマス・パイプオルガン・コンサート」といったホールの顔ともいえる公演で完売を記録したほか、プロデューサー・イン・レジデンス事業においても完売公演が出るなど、入場料収入が予算を上回りました。
- ・文化庁芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」）においては、プログラムオフィサーとの面談機会を定期的に設けるなど、戦略的獲得を行いました。
- ・企業協賛金、寄附金の他、当ホールの専門性が評価され、複数企業や団体からの依頼により負担金を受ける受託型の事業実現など、多角的な外部資金の獲得に取り組みしました。
- ・販売手数料増や「プロデューサー・イン・レジデンス」事業の充実、新規事業など、支出増加要因はありましたが、券売好調による広告宣伝費の削減などにより、入場料に助成金・協賛金等を含めた事業収入が支出を上回りました。

【管理運営収支】

- ・大小ホールの高い利用率に加え、複数日・全館にわたる利用の誘致や、延長利用が多かったことなどの要因により、予算額を越える利用料金収入を達成しました。
- ・クイーンズスクエア横浜全体で契約している光熱水費については、適正な空調運転と節約に務めました。電気基本料金やエネルギー単価の上昇、夏季の猛暑の影響等により、昨年度比約10%（約10,400千円）の増加となりました。

※実施した修繕項目については17頁表を参照。

※決算報告書は別添の通り。

令和 6 年度 「横浜みなとみらいホール」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	519,899,304		519,899,304	520,762,541	△ 863,237	R6年度期中における賃金スライド適用による増
利用料金収入	207,850,000		207,850,000	211,987,311	△ 4,137,311	
横浜市受託料収入	22,684,000		22,684,000	21,969,520	714,480	心の教育ふれあいコンサートの企画制作受託料収入
横浜市負担金収入（管理）	0		0	9,325,000	△ 9,325,000	R6年度物価高騰に伴う横浜市指定管理施設運営支援金
自主事業収入	59,793,000		59,793,000	81,081,844	△ 21,288,844	
自主事業収入	56,495,000		56,495,000	72,832,294	△ 16,337,294	入場料収入の増
横浜市負担金収入（事業）	860,000		860,000	500,000	360,000	横浜市文化芸術教育プラットフォーム 学校プログラム実施負担金
その他負担金収入	2,438,000		2,438,000	7,749,550	△ 5,311,550	外部からの企画制作依頼多く、負担金収入増
雑入	29,190,000	0	29,190,000	17,701,431	11,488,569	
印刷代	1,779,000		1,779,000	2,357,008	△ 578,008	利用者コピー、ゴミ処理代、物販手数料等の増
自動販売機手数料	271,000		271,000	691,415	△ 420,415	自動販売機の売上増による手数料増
国庫助成金	16,000,000		16,000,000	9,625,000	6,375,000	文化庁支援事業の申請額と採択額の差
民間協賛金・助成金・寄付金	3,200,000		3,200,000	2,324,000	876,000	
その他	7,940,000		7,940,000	2,704,008	5,235,992	財団からの繰入金収入減
収入合計	839,416,304	0	839,416,304	862,827,647	△ 23,411,343	

支出の部

科目	当初予算額 (A)		予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	252,362,000	0	252,362,000	243,146,260	9,215,740	
給与・賃金	207,949,000		207,949,000	200,639,228	7,309,772	職員の配置による差額
社会保険料	24,533,000		24,533,000	23,474,740	1,058,260	
通勤手当	14,302,000		14,302,000	13,524,156	777,844	
健康診断費	174,000		174,000	161,967	12,033	
勤労者福祉共済掛金	108,000		108,000	108,000	0	
退職給付引当金繰入額	5,296,000		5,296,000	5,238,169	57,831	
事務費	43,702,304	0	43,702,304	42,816,786	885,518	
旅費	660,000		660,000	426,906	233,094	オンライン会議等の普及に伴う出張旅費減
消耗品費	7,425,304		7,425,304	6,039,138	1,386,166	
会議贈い費	20,000		20,000	20,472	△ 472	
印刷製本費	400,000		400,000	506,620	△ 106,620	
通信費	3,188,000		3,188,000	1,564,605	1,623,395	メール等での連絡の増に伴う郵送費等の減
使用料及び賃借料	14,655,000	0	14,655,000	12,627,764	2,027,236	
横浜市への支払分	170,000		170,000	337,455	△ 167,455	行政財産目的外使用料
その他	14,485,000		14,485,000	12,290,309	2,194,691	ペーパーレス化に伴う、コピー機の枚数に応じた従量料金の減
備品購入費	360,000		360,000	1,797,400	△ 1,437,400	チケットセンターPC、事務所内空気清浄機等、老朽化に伴う備品更新
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	151,000		151,000	159,003	△ 8,003	
委託費	13,429,000		13,429,000	15,209,006	△ 1,780,006	予約システム改修等を行ったことによる経費増費
職員等研修費	416,000		416,000	349,138	66,862	参加費無料の研修参加等による減
振込手数料	694,000		694,000	545,765	148,235	
リース料	309,000		309,000	315,040	△ 6,040	
手数料	1,230,000		1,230,000	2,246,303	△ 1,016,303	電子マネー含めたクレジットカード決済の増、産業廃棄物処理費の増
地域協力費等	765,000		765,000	1,009,626	△ 244,626	避難訓練コンサート実施等に伴う経費増
事業費	113,845,000	0	113,845,000	109,835,040	4,009,960	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	24,704,000		24,704,000	24,090,747	613,253	「心の教育ふれあいコンサート」の支出
自主事業費	89,141,000		89,141,000	85,744,293	3,396,707	販売の好調な公演における広告宣伝支出抑制等による減
管理費	345,933,000	0	345,933,000	335,894,868	10,038,132	
光熱水費	110,000,000	0	110,000,000	108,595,322	1,404,678	
電気料金	37,200,000		37,200,000	39,736,164	△ 2,536,164	基本料金及び従量単価の増、夏季猛暑等を反映した使用量の増による
冷温水料金	67,000,000		67,000,000	63,016,410	3,983,590	冷熱・温熱いずれも前年の使用量を上回ったが、予算策定時に見込んでいた費用増を下回った
水道料金	5,800,000		5,800,000	5,842,748	△ 42,748	使用量及び従量単価増による
清掃費	0		0	0	0	
修繕費	2,020,000		2,020,000	2,302,300	△ 282,300	小破修繕費
機械警備費	330,000		330,000	338,800	△ 8,800	
設備保全費	209,370,000	0	209,370,000	200,446,358	8,923,642	
建物管理費	110,000,000		110,000,000	109,995,600	4,400	
電気設備保守	1,680,000		1,680,000	1,683,000	△ 3,000	
その他委託費	92,265,000		92,265,000	83,317,158	8,947,842	保守点検等は計画通り実施、老朽化に伴う作業委託費等について、横浜市との役割分担により執行額が減（直流電源装置の仮設バッテリー設置に伴う経費等）
その他保全費	5,425,000		5,425,000	5,450,600	△ 25,600	楽器（ピアノ、オルガン）保守経費
共益費	24,213,000		24,213,000	24,212,088	912	クイーンズスクエア横浜管理組合費
公租公課	23,646,000	0	23,646,000	30,584,303	△ 6,938,303	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	23,478,000		23,478,000	30,444,528	△ 6,966,528	課税収入（売上）の増
印紙税	143,000		143,000	112,800	30,200	
その他	25,000		25,000	26,975	△ 1,975	法人税等
事務経費	59,928,000	0	59,928,000	59,928,000	0	
本部分	59,928,000		59,928,000	59,928,000	0	
当該施設分	0		0	0	0	
二一ズ対応費	0		0	0	0	
支出合計	839,416,304	0	839,416,304	822,205,257	17,211,047	
差引	0	0	0	40,622,390	△ 40,622,390	